本を紹介しあう会

テーマ：平和の大切さを伝える本

平成２８年（２０１６年）８月２０日（土）１４時～１６時に、広島市立中央図書館の３階セミナー室で、本を紹介しあう会を開催しました。参加者が紹介された本を、おすすめの理由とともに掲載しています。興味を持たれた本を、ぜひ読んでみてください！

ご希望の本が、貸出中であったり、他の広島市立図書館にある場合は、予約の制度をご利用ください。

（本を紹介しあう会の流れ）

① グループ内で、１人１冊、５分程度で本を紹介します。

② 紹介された本について、５分間自由に話し合います。

③ グループで「平和への思いを広げていくために私たちができること」について話し合います。

④ グループの代表者が全員に向けて発表します。

A グループ

紹介する本	書名	アオギリのねがい　被爆アオギリ二世物語		
	著者名	「被爆アオギリ二世」の絵本をつくる会／作・画		
	出版社	広島平和教育研究所	出版年	１９９６年
紹介したい理由	被爆した親木（かあさんアオギリ）の思いを受けとめた子どもの苗木たちが、かあさんアオギリの願いを広めるためにそれぞれが旅立っていくお話です。子どもたちにも分かりやすく被爆の実相を伝えると共に、平和の大切さや命の尊さを静かに訴えています。この絵本を手にとっていただくことで被爆体験の継承の一助となりましたら幸いです。			

紹介する本	書名	第二の罪　ドイツ人であることの重荷		
	著者名	ラルフ・ジョルダーノ／著、　永井　清彦／〔ほか〕訳		
	出版社	白水社	出版年	１９９０年
紹介したい理由	ドイツ人であることが、第１の罪（ユダヤ人虐殺）を起こしたことに加え、「第２の罪」を問わねばならないとの問題提起に新鮮さを覚えました。日本の場合はどうか。第１の罪も、第２の罪も反省したことはあるのでしょうか。			

紹介する本	書名	ジュノー　絵本版		
	著者名	津谷　静子／文、　ｅｎｊｉｎ　ｐｒｏｄｕｃｔｉｏｎｓ／絵、ＵＮＩＯＮ　ＣＨＯ／絵		
	出版社	ありがとう出版	出版年	２００８年
紹介したい理由	原爆被害に苦しむ広島に１５トンの医薬品・医療用品を届けてくれた、ドクター・ジュノー。国際赤十字の一員として戦争という悪魔と闘ってきた彼の生涯が、絵本でわかりやすく読めます。困難や悲しみのどん底から何度も乗り越え、人間に対する深い愛を示すドクター・ジュノーの姿は我々に希望を与えてくれます。			

紹介する本	書名	国際平和とは何か　人間の安全を脅かす平和秩序の逆説		
	著者名	吉川　元／著		
	出版社	中央公論新社	出版年	２０１５年
紹介したい理由	本書は広島市が核兵器廃絶実現のために、核抑止による安全保障から被爆体験の伝承を含めた対話と信頼醸成に努め、平和と人間の安全保障への転換を進める上で多くの示唆を含んでいる。			

Ｂグループ

紹介する本	書名	原爆供養塔　忘れられた遺骨の７０年		
	著者名	堀川　惠子／著		
	出版社	文藝春秋	出版年	２０１５年
紹介したい理由	被爆の年１４万人が死亡。うち７万人が行方不明。その数に相当する７万人の遺骨が原爆供養塔の地下に整然と眠っている。行方不明の家族はそのことをどれだけ知っているだろうか。			

紹介する本	書名	いわたくんちのおばあちゃん		
	著者名	天野　夏美／作、　はまの　ゆか／絵		
	出版社	主婦の友社	出版年	２００６年
紹介したい理由	私の母の被爆体験のお話です。原爆絵本ですが、とてもやさしくあたたかい絵本です。現代の小学生の目線で描かれているので、子ども達にも戦争、原爆の悲しみがとてもよく伝わってくる本だと思います。			

<table>
<tr><td rowspan="3">紹介する本</td><td>書名</td><td colspan="3">わが闘争　上・下</td></tr>
<tr><td>著者名</td><td colspan="3">アドルフ・ヒトラ－／著、　平野　一郎・将積　茂／訳</td></tr>
<tr><td>出版社</td><td>角川書店</td><td>出版年</td><td>１９７３年</td></tr>
<tr><td>紹介したい理由</td><td colspan="4">右翼的に傾斜する近世界において、人類史に名を残す悪名高き独裁者の口述録というものは、平和と言う抽象的概念を明確にさせるファクターとしてその機能を存分に発揮するのではないだろうか。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="3">紹介する本</td><td>書名</td><td colspan="3">いまなお原爆と向き合って　原爆を落とせし国で</td></tr>
<tr><td>著者名</td><td colspan="3">大竹　幾久子／著</td></tr>
<tr><td>出版社</td><td>本の泉社</td><td>出版年</td><td>２０１５年</td></tr>
<tr><td>紹介したい理由</td><td colspan="4">５歳の時、広島で被爆した著者は、大学卒業後ずっとサンフランシスコで暮らしている。１９９１年、それまで語ることのなかった彼女のお母さんが被爆証言をした。英語と日本語でお母さんの被爆体験を執筆し、平和の大切さを世界に発信しようとしている。</td></tr>
</table>

Cグループ

紹介する本	書名	ちいちゃんのかげおくり		
	著者名	あまん　きみこ／作、　上野　紀子／絵		
	出版社	あかね書房	出版年	１９８２年
紹介したい理由	小さな女の子のいのちと、時を経て変わっていく空のかたちの物語。戦争の影に埋もれてしまいそうな、でも決して埋もれさせてはいけない、戦争のやるせなさを痛感する絵本です。			

紹介する本	書名	広島のうた　The Songs of Hiroshima		
	著者名	大原　三八雄／編訳		
	出版社	春陽社出版	出版年	１９７５年
紹介したい理由	詩人・英文学者の大原三八雄の編集・翻訳。深川宗俊、原民喜、栗原貞子、正田篠枝、峠三吉らの詩が所収されています。原爆詩を通して、ヒロシマの文学者の願いに触れたい。			

紹介する本	書名	謎のアジア納豆　そして帰ってきた〈日本納豆〉		
	著者名	高野　秀行／著		
	出版社	新潮社	出版年	２０１６年
紹介したい理由	著者は真のコスモポリタンである。原爆を超えて、真の世界平和のために、コスモポリタンとしての生き方に学ぶ必要があると思いました。			

<table>
<tr><td rowspan="3">紹介する本</td><td>書名</td><td colspan="3">広島のおばあちゃん　過去現在未来</td></tr>
<tr><td>著者名</td><td colspan="3">鎌田　七男／著</td></tr>
<tr><td>出版社</td><td>鎌田七男シフトプロジェクト</td><td>出版年</td><td>２００５年</td></tr>
<tr><td>紹介したい理由</td><td colspan="4">この本は、原爆養護ホームで暮らすおばあちゃんが、学生達の質問に答える会話の形を取りながら、被爆や戦争について易しい言葉で伝えています。“ヒロシマ”を初めて学ぶ人にも読みやすい本だと思います。
被爆者の平均年齢が８０歳を越えました。原爆を体験した人々の話を直接聞ける機会も少なくなっています。だからこそ、このような本が大切になっていくのではないかと思い、選びました。</td></tr>
</table>

Dグループ

<table>
<tr><td rowspan="3">紹介する本</td><td>書名</td><td colspan="3">息子は帰ってきた　戦争の民話</td></tr>
<tr><td>著者名</td><td colspan="3">立石　憲利／編著</td></tr>
<tr><td>出版社</td><td>手帖舎</td><td>出版年</td><td>１９８５年</td></tr>
<tr><td>紹介したい理由</td><td colspan="4">この本は、原爆関係の図書ではありませんし、偶然興味に任せて図書館で手に取ったものですが、母と子の情には共感できる部分が多く、一気に引き込まれて読んでしまいました。
先の第二次世界大戦では、多くの若い青年たちが海外へ兵士として送られ、亡くなっています。この本は、そういうわが子の帰りを家で願う母親の側からの、様々な不思議な体験を聞き書きとして民話風に取りまとめたものです。
“人は死ぬとき帰る”“虫の知らせ”などの体験談は、夢や偶然の真偽の問題を超えて、一目会いたい・帰って欲しいという、息子、親の双方の心情は胸が詰まるほど共感できます。
１人１人に、大切に育てられてきた人生があり、平和な世の中で生を全うしてほしい。家族の情という身近なテーマで平和の大切さを伝える本の 1 冊としてぜひ紹介したいものです。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="3">紹介する本</td><td>書名</td><td colspan="3">夕凪の街桜の国</td></tr>
<tr><td>著者名</td><td colspan="3">こうの　史代／著</td></tr>
<tr><td>出版社</td><td>双葉社</td><td>出版年</td><td>２００４年</td></tr>
<tr><td>紹介したい理由</td><td colspan="4">今まで知らなかった戦後の日常が描かれていて、とても衝撃的でした。鮮やかな色合いで淡々と進むので、それも印象的です。</td></tr>
</table>

紹介する本	書名	金のひしゃく　北斗七星になった孤児たち		
	著者名	増田　昭一／絵・文		
	出版社	中国残留孤児援護基金	出版年	２００４年
紹介したい理由	戦争を知らない人に、つい半世紀前起きた悲惨なことを知ってもらいたいです。			

紹介する本	書名	原爆詩集		
	著者名	峠　三吉／作		
	出版社	岩波書店	出版年	２０１６年
紹介したい理由	今年、被爆体験伝承者の第５期生になりました。母が被爆した被爆２世としても、改めて様々な学習をはじめました。その中で出会ったのが峠三吉の詩集です。平和の大切さ、原爆の非人間性を皆様と分かち合いたいです。			

紹介する本	書名	広島の碑をめぐる闘いの記録		
	著者名	藤井　一郎／著		
	出版社	海内興論	出版年	１９７１年
紹介したい理由	「過ちは繰り返しませぬから」の撤去の聲を正常・公平に報道せづして真の平和はあり得ない。色々な意見があることを認識する事から平和ははじまる。			

※『広島の碑をめぐる闘いの記録』は、貸出用の本はありませんが、中央図書館 3 階の広島資料室で閲覧することができます。

職員が紹介した本

<table>
<tr><td rowspan="3">紹介する本</td><td>書名</td><td colspan="3">少年は戦場へ旅立った</td></tr>
<tr><td>著者名</td><td colspan="3">ゲイリー・ポールセン／著、　林田 康一／訳</td></tr>
<tr><td>出版社</td><td>あすなろ書房</td><td>出版年</td><td>２００５年</td></tr>
<tr><td>紹介したい理由</td><td colspan="4">実在する 15 歳の少年チャーリー・ゴタードの南北戦争での体験をもとに書かれた中高生向きの物語。作者の一部創作はあるが、史実をもとに書かれており、主人公は人が死んでいく、人を殺すことを繰り返していく戦場で、恐怖、歓喜、凶暴性、無気力、無関心を味わう。少年の視点から、戦争は傷を負う、命を失うばかりでなく、「命」に向き合う人間の心を失わさせるということを知ることができる。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="3">紹介する本</td><td>書名</td><td colspan="3">動物と戦争　真の非暴力へ、《軍事－動物産業》複合体に立ち向かう</td></tr>
<tr><td>著者名</td><td colspan="3">アントニー・Ｊ．ノチェッラ二世／編、　コリン・ソルター／編、
ジュディー・Ｋ．Ｃ．ベントリー／編、　井上　太一／訳</td></tr>
<tr><td>出版社</td><td>新評論</td><td>出版年</td><td>２０１５年</td></tr>
<tr><td>紹介したい理由</td><td colspan="4">人間以外の生き物や地球環境もまた、戦争によって巻き添えになり、攻撃対象とされ、兵器として、また兵器開発のための実験に利用されています。人間同士の戦争に、何の選択肢もなく巻き込まれている動物たちの姿から、戦争のみならず、人間の活動は人間だけの問題ではないのだ、と気づかせてくれる本です。
文章も内容も、決して簡単な本とは言えませんが、ぜひ読んでほしい一冊です。</td></tr>
</table>